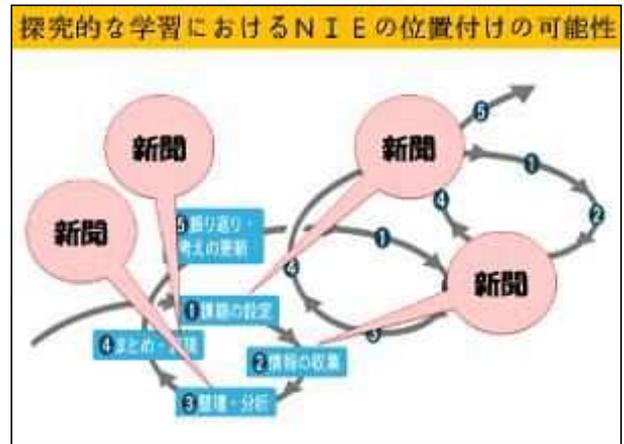
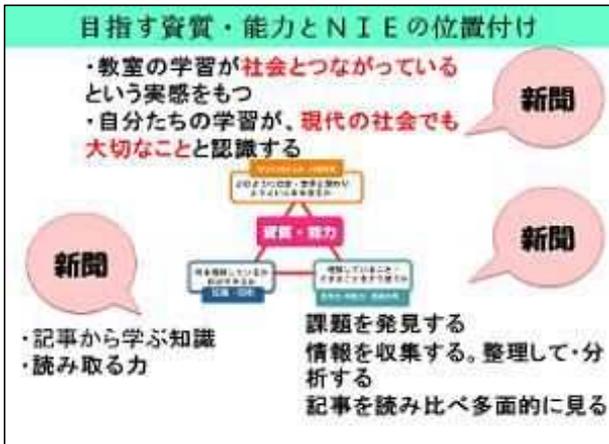


令和7年度 新潟市新聞活用教育（NIE）推進事業 実践報告集



目指す資質・能力とNIEの位置づけ

- ① 「なぜ？どうして？」という問題発見力、「どうしたらよいのか」を追究する探究力
- ② 新聞づくりは、情報収集に基づいた「思考・判断・表現」活動そのもの
- ③ 投書や取材を通して社会とのつながりを実感する など

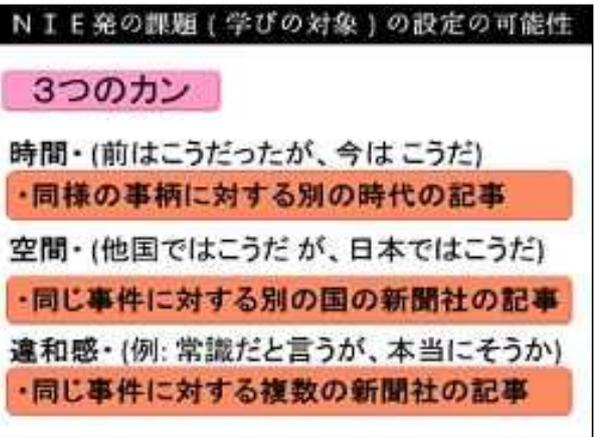
探究的な学習におけるNIEの位置づけの可能性

- ① 学習課題を作る過程でも
- ② 情報収集でも
- ③ 情報を整理分析する場合にも
- ④ まとめる学習の段階でも



学習過程におけるNIEの位置付け

- ① 問題意識を高める記事
- ② 解決を追求する解決するための記事
- ③ 学んだことを確認する記事
- ④ まとめ・振り返りのための新聞づくり



NIE発の課題の設定の可能性

先生方がいかに子どもの疑問や問題意識を触発するかが鍵になります。

3つの「カン」を手がかりにして考える手もあります。子どもがギャップに気づき、疑問や問題意識がわいてきたらそこを課題とすることもできます。

もくじ

○ 巻頭言

| | | | | |
|----|------|------|------------------|----|
| 1 | 濁川 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| 2 | 南中野山 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 |
| 3 | 桜が丘 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 |
| 4 | 亀田 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 4 |
| 5 | 金津 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 5 |
| 6 | 臼井 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |
| 7 | 小針 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7 |
| 8 | 漆山 | 小学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8 |
| 9 | 光晴 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9 |
| 10 | 山の下 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 10 |
| 11 | 宮浦 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 11 |
| 12 | 亀田 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 12 |
| 13 | 新津第二 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 13 |
| 14 | 白根第一 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 14 |
| 15 | 潟東 | 中学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 15 |
| 16 | 明鏡 | 高等学校 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 16 |

<巻頭言>

N I E が育む力

新潟市教育委員会学校支援課
課長 内藤 浩悟

これからの社会を生きる子どもたちには、多様な情報を適切に活用しながら、自ら考え、判断し、表現する力を育むことが求められています。新聞を教材として活用する NIE (Newspaper in Education) の取組は、子どもたちが社会とつながりながら主体的に学び、思考を広げていくための有効な教育活動として、各学校で進められています。

私たちの身の回りは Society5.0 の時代を迎え、多様な情報があふれています。その中から必要な情報を選び取り、内容を整理・比較しながら自分の考えを形成していくためには、情報の信頼性を見極め、多面的に物事を捉える力を育てていくことが重要です。新聞には、社会の出来事を幅広く伝える「網羅性」と、確かな取材に基づく「信頼性」という特長があり、子どもたちが社会への関心を高め、主体的に学ぶための貴重な教材となっています。

令和7年は、市内の小学校、中学校、特別支援学校、中等教育学校、高等学校の中から計16校の推進校を指定し、新潟県NIE推進協議会の協力を得て、新聞の複数紙配備などの環境整備を進めました。教科等の授業や学校図書館の活用を通して新聞を生かした多様な実践が行われており、児童生徒が記事を読み比べたり、意見を交流したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力や情報活用能力を高めています。

本実践報告集には、各推進校におけるNIEの取組がまとめられています。本冊子が、各学校におけるNIEのさらなる推進と、児童生徒の資質・能力の育成につながることを期待しています。

新聞活用の様子

新聞を身近に感じ、必要な情報を得られるように、以下の取組を行いました。

- ・ 4～6年生を対象とした、新聞社の方による出前授業
- ・ 図書室前新聞コーナーの他に、4～6年生教室がある階に3社の新聞の配備



新聞作成のために、NIE担当の方から記事の作り方や割り付け方を学びました。
(4年国語)



NIE担当の方から、取材の仕方や新聞の作り方を学びました。(5年社会)



新聞の見方を教えていただき、SDGsについて、集めた材料を分類したり関係づけたりして新聞の面白さを学びました。(6年国語)



図書室前に設置している「新聞コーナー」です。休み時間に児童が読んでいる姿を時々見かけます。

担当の先生から

- ・ 出前授業では、新聞づくりについて取材の仕方や記事の作り方等、詳しくお話していただきました。児童だけでなく、担任も新たな視点を得ることができました。
- ・ 6年間かけて、児童の実態に合わせた学びがあるとよいと思います。NIEの取組として、毎年1回ずつ出前授業をしてもらえると、新聞や活字に対する意識が変わると思いました。

新潟市立南中野山小学校

校長 堀川 善行

新聞活用の様子

日常的に新聞を身近に感じたり、活字に慣れ親しんだりできるように取り組みを進めてきました。また、各学級で新聞を活用する授業実践を行いました。



図書館に新聞が閲覧できるコーナーや新聞記事紹介コーナーを設けました。



【4年 社会】自然災害の様子について、新聞記事から最近の出来事を調べました。



【6年 総合】佐渡について調べた内容を新聞にまとめました。



【1年 国語】新聞記事から、カタカナで書かれた言葉を見つけ、書き写しました。

担当の先生から

新聞を活用して、学年に応じた活動を通して、新聞に親しみ、社会への関心や読む力を高めることができた。来年度も学年に応じた活動を継続し、新聞に触れる機会を確保し新聞活用の力を育てていきたい。

新潟市立桜が丘小学校

校長 中村 一彦

新聞活用の様子

新聞を活用して、学習の理解を深めたり、情報活用能力を高めたりすることを目指して、以下のような取り組みをすすめてきました。



新聞を読み比べ、見出しや写真の効果を知ったり、必要な情報を見つけたりし、友達と意見の交流をしました。【5年 国語】



プラスチックごみの問題について新聞の情報を読み、環境問題についての考えをタブレットにまとめました。【6年 国語】



桜の観察新聞をふむスタのクミハンを活用して作っています。完成した新聞をお互い紹介し合います。【4年 総合的な学習】



用務員さんの手作り新聞架けを玄関に設置しました。全学年が廊下を歩くたびに、新聞の記事に夢中になっています。【全校】

担当の先生から

国語科を中心に、新聞を活用した授業を展開する学年が多かったです。新聞の読み方を学習し、学習内容に応じて必要な記事を読んだり、自分たちの興味関心に合った記事に出会って異学年で交流したりする姿が見られました。自分の考えを新聞という形で表現することもできました。新しいことを楽しみながら学ぶ手段の一つとして新聞が活かされることに子どもたちは気付いたようです。

今後も、図書館部として新聞に関心をもって読めるよう、全校児童が新聞に親しむ機会や場を作り、新聞活用の情報提供をしていきたいと考えています。

新潟市立亀田小学校

校長 平山 誠

新聞活用の様子

本校では、児童が新聞に慣れ親しみ、日常的に情報に触れながら、自分の考えや感想をもてるようになることをねらいとして、NIE教育に取り組みました。デジタル新聞と紙の新聞の両方を活用し、朝学習や図書館、教科や総合的な学習の時間など、学校生活のさまざまな場面で新聞を活用しました。



毎週水曜日の朝学習を「新聞タイム」とし、「ふむスタ」を読んで新聞カードにまとめる活動や、紙の新聞を使ったゲームに取り組みました。新聞カードは、低学年用・中学年用・高学年用を用意し、学年の実態に応じて無理なく作成できるようにしました。後期には「新聞一言中継」として、まとめた新聞カードを代表児童がZOOMを用いて発表する活動を行いました。これらの取り組みを通して、児童は記事を読んで感想をもてるようになってきました。



新聞閲覧台では、その日の新聞を自由に読めるようにしました。また、一週間分の新聞をまとめて手に取って読める新聞コーナーを設置し、休み時間などにも新聞に親しめる環境を整えました。

振り返りに新聞を活用しました。5年生の国語では、物語の主題や人物像についてまとめました。また、4年生の国語では、クミハンを使って「和と洋新聞」をつくりました。

新聞活用の成果と今後の課題

新聞タイムや図書館での取り組みを通して、児童が新聞に触れる機会が増え、新聞に親しむ姿が見られるようになりました。デジタル新聞と紙の新聞を活用することで、新聞を読むことへの抵抗感が薄れ、記事を読んで自分なりの感想をもつ児童が増えてきました。また、「ふむスタ」の活用事例について、新潟日報社に取材していただく機会もありました。

一方で、新聞記事を読んで考えをもつことはできるようになってきましたが、その考えを友達と交流し、深めていく活動については課題が残っています。今後は、新聞タイムや図書館の新聞コーナー、学習の振り返りでの新聞活用を通して、児童同士の考えに触れる機会を大切にしていきたいと考えています。

新聞活用の様子

当校は、令和5・6年度、新潟県N I E推進協議会の研究委嘱校となり、2年間の実践研究を終えました。2年間の研究成果や実践の蓄積を生かし、「持続可能なN I E」をテーマにN I E実践を進めました。主体的に学習活動と向き合い、自分の思いや考えを自分の言葉で伝えられる子どもを目指し、様々な取組を行いました。



2年生（国語）

学習参観日に、昨年度の実践を参考にして「かたかなで書くことば」という学習で新聞を活用しました。新聞の中から「外国の地名・人名」「外来語」「擬声語」という視点でかたかなを探す活動を行いました。保護者の方も一緒に参加していました。



廊下や掲示板の活用

児童玄関前や各階の廊下に新聞を置いたり、保健室や理科室などの特別教室前掲示板に新聞を掲示したりしています。児童が新聞に興味をもち、足を止めて読んでいる姿が見られます。



委員会活動

給食中の放送で、放送委員が新聞記事を読んでいます。人気スポーツ選手の活躍の様子など、多くの児童に興味をもってもらえるような記事を選び、紹介しています。

担当の先生から

上記の他にもN I Eタイムという時間を週1回設定しています。N I Eタイムでは、職員が選んだ記事について考える活動はもちろんのこと、児童が興味のある記事を選び、他の児童に紹介し合う活動など、それぞれの学級の実態に合った活動を行っています。

3年間を通して、児童が新聞に触れられるような環境を整えたり、職員間でN I Eの取組を紹介し合ったりしてきました。全職員で同じ方向性で取り組んだり、取組を継続したりすることで、児童が新聞を手にする光景が当たり前になってきました。今後も、「持続可能なN I E」をテーマに、職員間の協働性を発揮しながら、N I E実践を継続していきます。

新聞活用の様子



【朝学習での新聞タイム】

朝学習の時間に新聞を読みました。自分の興味のもった記事を自由に読みました。



読み進めていく中で、友達にも読んでもらいたい記事を見付け、紹介し合いました。



【1年生】

国語「新聞を読もう」
地域猫を守る取り組みについての記事を学級全体で読み込み、ロイロノートに考えたことをまとめました。



【新聞コーナーの設置】

3階図書室前に、小学生新聞の閲覧コーナーを設置しました。

成果：新聞に興味をもっていなかった児童も、学習を通して新聞にふれることができました。また、いろいろな記事を読んでみたいという意欲付けにつながりました。

課題：授業で活用する際は、記事の内容が多いため各学年にあった内容を選ぶことが大変だと感じました。低学年では、子ども新聞であっても言葉が子どもにとって難しい場合があるため配慮が必要でした。

継続：新聞コーナーの活用は続けていきたいです。今回は図書室前に設置していましたが、より目に付きやすく利用しやすいオープンスペース等にも設置できればよいと考えました。

新聞活用の様子

当校が重点的に育成する資質・能力の1つである「協働する力」を発揮しながら、国語科の学習で読む力を高めることを目指して、5年生で「新潟再発見」の学習を行いました。新潟に関する記事を集め、班で1枚の模造紙にまとめました。



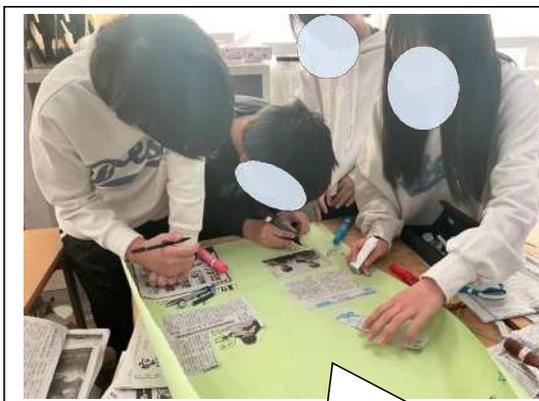
【①記事の概要をつかむ】

一緒に内容を確認しながら読みます。



【②記事を並べる】

完成イメージを共有しながら並べます。



【③記事にコメントをする】

一緒に記事へのコメントを考えます。



【④完成したものを見比べる】

比較することで新たな発見があります。

担当の先生から

- 5年生には難しい言葉もありますが、友達と一緒に読むことでお互いに言葉を補い合いながら記事の概要を読み取ることができました。
- 班で1つのものを作り上げる活動を設定したことで、創意工夫をしながら自然に友達とかかわる姿が見られました。
- ▲高学年での実践が中心になってしまったため、低・中学年が協働しながら読む力を高める活動を構想する必要があります。

新潟市立漆山小学校

校長 塚田 康一

新聞活用の様子

日常生活の中で、子どもたちが新聞に触れられる環境づくりを整えてきました。また、授業の中や学校行事においても、積極的に新聞を活用してきました。

【環境づくり】



校長室前は、新聞に興味をもち、児童自ら記事を読む環境になっています。特に、『大谷翔平ニュース』コーナーは大人気で児童が夢中になって記事を読んでいた。図書室は、新聞コーナーを入りに設置して、いつでも最新の記事に触れられる環境になっています。

【授業づくり】



【社会】
【総合的な学習の時間】
調べた内容を新潟日報教材アプリ「ふむスタ」を活用して新聞にまとめました。



【国語】【学活】
活字探しゲームや新聞すごろくなど、新聞を用いたゲームを学級で行いました。

【学校行事:運動会】

縦割り班活動では、新聞を工夫してつなげて、ボール運びをしました。



担当の先生から

新聞を家で読む習慣がない子どもたちが増えてきている中で、新聞に触れる環境を整えていくことは、児童の心をゆたかにすることにつながることを感じました。児童の発達段階に応じて、新聞の触れ方や活用方法を工夫して今後も積極的に新聞を活用していきたいです。

新潟市立光晴中学校

校長 渡邊 敏尚

新聞活用の様子

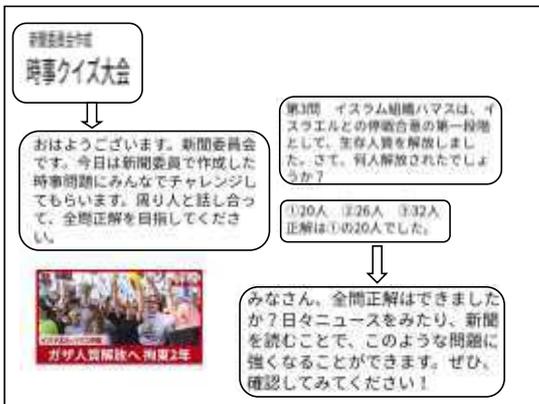
図書委員会や新聞委員会で、テーマに沿った記事をスクラップして掲示したり、時事問題クイズを作成し、全校生徒に出題する企画を行ったりしました。国語科や社会科では、コラムの要約や新聞レポート作成に活用しました。



戦後80年「戦争と平和」をテーマに図書委員が記事をスクラップして掲示しました。



社会科の新聞レポートでは、記事を写真に撮り、要旨と自分の考えを発表しました。



新聞記事をもとに新聞委員が時事クイズを作成し、クイズ大会を行いました。



図書館の新聞コーナーに、新聞記事とリンクする図書を展示しました。

担当の先生から

普段、新聞に触れる機会があまり多くない生徒達ですが、これらの活動を通して、「新聞は意外と面白い」「役に立つ」「社会の出来事が詳しく分かる」といった声が聞かれました。また、図書館で新聞を手にとる姿も増えました。

課題としては、さらに身近に新聞がある環境づくりです。理想を言えば各教室に一部ほしいので、ローテーションを組むなどの工夫が必要です。

新聞からインプットした情報を、自分なりに工夫してアウトプットする楽しさや達成感が味わえることから、委員会や授業での活用を継続したいと思います。

新潟市立山の下中学校

校長 東 淳也

1. 実践のねらい

- (1) 新聞を身近に感じる。
- (2) 新聞の内容を理解する。（読解力）
- (3) 時事問題に興味をもつ。
- (4) 時事問題に対する感想や自分なりの意見をもつ。
- (5) 各自の社会認識の形成の一助とする。

2. 実践の概要

(1) 図書委員会との連携。

- ① 図書館の新聞コーナーを見やすく整備。
- ② 図書委員が模造紙に新聞の切り抜きを貼り、記事の感想を記入。これを図書室前の廊下に掲示した。この傍らに新聞の活用方法に関する書籍を置いた。



(2) 社会科の授業における実践

- ① 「ふむスタ」を用いて、時事の話題を検索し、必要に応じてネットでさらに詳しく事件を調べる。調べた時事ニュースを理解し、これに対する感想、自分なりの意見をもつ。
- ② 授業の初めに「今日の気になるニュース」とそれに関する感想を1授業1人発表する。

3. 実践の成果

- (1) 図書館で新聞を手にする生徒が増えた。
- (2) 授業中に時事のニュースについて話題になることがあったり、休み時間等に時事のニュースや、これからの社会の展望について語る生徒が出てきた。
- (3) 新聞に掲載されていることがらと関連する公民的分野の学習の理解が深まった。

4. 実践の課題

教室に年間を通じて新聞を配置する予算が必要である。



新潟市立宮浦中学校

校長 小林 輝幸

新聞活用の様子



【3年国語】新聞記事を読み、熟語の読み方や言葉の意味を調べたり、記事の内容について意見文を書いたりしました。授業開始10分程度、継続的に取り組んでいます。



【2年総合】「ふむスタ」の新聞作成ソフト「クミハン」を使い、新潟巡検や職場体験のまとめを作成しました。1年時から継続して使うことで、見出しの工夫なども考えてまとめられるようになりました。



図書室には新聞コーナーを設けており、昼休みや放課後の時間に閲覧されています。朝刊だけでなく、「朝日中高生新聞」や新潟市の広報なども閲覧できます。

また、進路選択の参考資料として、新聞に掲載された高校生の学びの記事をスクラップし、2年生の階に掲示しています。高校のホームページやパンフレットではわからない高校生の取組を、新聞を通して知ることができました。

担当の先生から

新聞記事を読んだり新聞の形にまとめたりする活動を通して、語彙力を高め、自分の考えを文章にまとめる力が身に付いてきました。それらの力は、様々な教科のレポート作成にも生かされています。一方で、新聞が活用されている授業は国語や総合的な活動の時間などの限られた教科にとどまっています。今後はより幅広い教科での新聞の活用について模索していきたいと思えます。

新潟市立亀田中学校

校長 祝 貴浩

新聞活用の様子

- ①毎朝、生徒玄関前に新聞を掲示し、朝日新聞・毎日新聞・新潟日報の三誌の見出しを拡大して紹介しました。
- ②新聞専門部の生徒が週に1回、気になる記事をスクラップし、ロイロノートに配信しました。また朝学活等でクラスに記事の紹介をしました。



見出しを拡大して、新聞ごとの記事（一面）の違いを紹介しました。



生徒玄関前に掲示したことで、多くの生徒が目にしました。



新聞専門部で気になる記事をピックアップし、ロイロで紹介しました。



新聞専門部が取り上げた記事を、朝学活等で紹介しました。

担当の先生から

新聞3紙の比較を行うことで、見出しの違いに引き付けられた生徒が多くいました。特に新潟日報と全国紙の読み比べから、地域に根ざした新聞の重要性を感じていました。またネットニュースやテレビよりも詳細な記事から、新聞の魅力に気づくことができました。今後も気軽に読めるよう新聞の掲示を行っていきます。また、各教科での取組や、ふむスタの活用を進めていきたいと思ひます。

新潟市立新津第二中学校

校長 長谷川 淳

新聞活用の様子

- ・ 社会への関心を高め、思考力・表現力・情報活用能力を育むための新聞活用について授業実践をおこないました。
- ・ 新聞に慣れ親しみ、学習や生活の中で新聞活用できるように、図書館や進路指導室に「新聞コーナー」を設置しました。



新聞から記事を選び、語彙の分類を行ってみることで、日常の中で語彙の用いられ方の一傾向を探りました。
【3学年国語科】



新聞から1次関数が活用されている記事を見つけ、1次関数が日常生活に関わっていることを実感できました。
【2学年数学科】



新聞を自由に閲覧できるように、図書館と進路指導室に新聞コーナーを設置しました。また、特に読んでもらいたい記事は、図書館掲示版に切り抜きを掲示し、図書館に入らずとも記事を見られるようにしました。



担当の先生から

- ・ 新聞活用した授業実践を通して、生徒は各教科で習得した知識が日常生活の中でどのように活用されているのかを新聞記事から学ぶことができました。
- ・ 当初、図書室内1ヶ所の設置だった新聞コーナーを第二図書室や進路指導室内にも設置しました。また、新聞記事の紹介コーナーも設置することで、生徒の新聞に親しむ機会が増えました。

新聞活用の様子

今年度、当校ではNIE推進事業を受けて、以下の取組を行いました。



【全校】各学年廊下に新聞を掲示し、気軽に読めるようにしました。



【2年生】朝・終学活に気になる新聞記事をまとめ、紹介しました。



【3年生 社会（公民）】

4社の新聞の社説を比較し、メディアリテラシーを高めて政治参加する重要性について学びました。



【1年生 国語】

新聞の「ひと」の生き方、考え方が記された記事を読み、その内容やそれについての自分の考えを伝え合いました。

担当の先生から

当校は、ほとんどの生徒が新聞を読む習慣がなく、ネットニュースやSNSで情報を得ています。しかし、そんな生徒たちだからこそ、新聞にしかないニュースの伝え方や自分の価値観につながる記事があること、発信者の考えによって偏った情報が発信されることがあることなどを、新鮮な様子で学んでいました。また、言葉に注目して丁寧に読み深める姿も見られました。NIE推進の取り組みを通して、生徒の読解力や思考力を高めるために、また、情報収集活用能力を育むために、これからも積極的に新聞を活用した教育活動を展開していく必要があると感じました。

新潟市立潟東中学校

校長 佐々木 忠洋

新聞活用の様子

潟東中学校では、「新聞を活用した授業実践」「新聞に親しみやすい環境づくり」に力を入れて取り組みました。



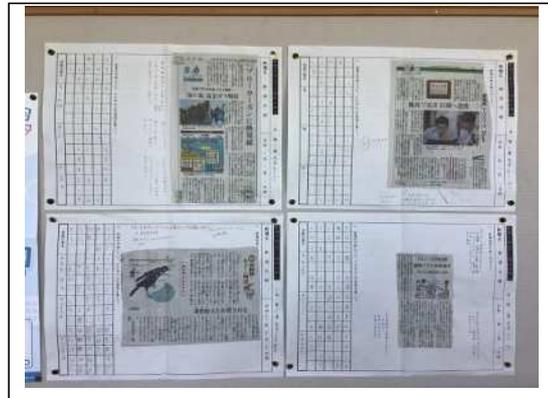
「新聞の読み方」「新聞で得られる情報」に関する授業を行いました。



さまざまな新聞を読み比べました。



中学生に関心をもってほしい記事を掲示しています。



1年生は、投書に挑戦しました。

担当の先生から

潟東中学校の生徒にとって新聞は「読むのが大変。」という印象があり、手に取りにくいものでした。新聞を取り入れた授業実践や、積極的に掲示を行ったところ、生徒から「新聞を読むと友達や先生との話題が広がる。」「世間のことを知るの大事。」「時間のある時に見ようと思う」などの振り返りがありました。新聞に親しみをもち、新聞のメリットについて学ぶことができたと思います。

新潟市立明鏡高等学校

校長 小林 正樹

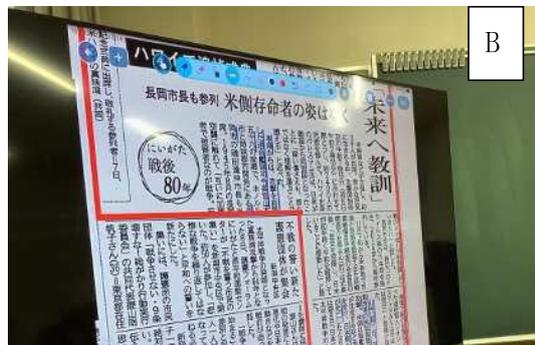
新聞活用の様子

明鏡高校では、進路指導、生徒指導、探究活動の時間など教育活動全体を通して新聞を活用しています。

歴史総合の授業では、太平洋戦争の学習の際に、真珠湾攻撃と新潟との関連性や、戦争を語り継ぐ必要性について学びました。（写真A, B）公共の授業（写真C, D）では上越市長選挙の翌日（10/27）の新潟日報と全国紙ではどのような違いがあるか確認し、新聞によってより伝えたい内容が異なることを理解しました。



生徒の活動の様子。新聞記事を読み、重要である箇所に印をつけています。



生徒が印や線を引いたところについてロイロノートで共有している様子です。



10/27の各新聞の一面を比較しました。



記事を比較して「日報では上越市長選挙が一番大きい」「朝日や読売は国際関係が書いている」「日報は県内天気が詳しく載っている」という意見もありました。

担当の先生から

授業内で普段新聞を読むか、日常的にニュースを見るかを聞いたところ、読まない、ニュースを見ないという生徒が多くいました。本取組では社会科の授業を中心に教科書の中の遠い出来事としてではなく、自分たちの身近な出来事として捉えられるようになったと思います。今後はより新聞をきっかけに教科書の内容は身の回りと関わっているということに気づくことができる活動ができたらと思います。